

クリスマス・プレゼンスを開けよう：ディスクロージャー

(抄)

By David Wilcock

December 25, 2014

【訳者注】昨年10月末以来、Divine Cosmos に新しい記事が出なくなったので、てっきり身を隠したか暗殺されたと思っていたデイヴィッド・ウィルコックが、今年のクリスマスにこれを書いていた。その後も、以前よりはるかにペースは遅いが、1カ月に一度ほど書いていることがわかった。ウィルコックの、日本の窓口と言ってもよいこのサイトとしては面目ないが、そう考えてしまうほど、彼の立場は危ないということである。(この記事から、今は外出時には護衛がついていることがわかる。)

10カ月前に行われた、50ページを超える、長いラジオ対談 (Jimmy Church 主宰) から一部を訳してみたが、不思議なことに10カ月のギャップがないかのように読める。これは彼が言っているように、一々の出来事よりも、全体情勢を論ずるようにしたからであろう。

「クリスマス・プレゼンス」とは、よくわからないが、サタン側に対する神側の「存在＝軍事態勢」がいよいよ整った、ということかもしれない。選んだ部分は、「同盟」の現在の様子を中心に語っている。「同盟って何の同盟？」という人には、答えないで読んでいただくことにする。



何か大きなことが起ころうとしている

なぜ急ぐのか？ なぜもっとゆっくりしたペースでは駄目なのか？ 私がこのような非常に強烈な夢と、同じくらい強烈な、インサイダーによるデータを、合わせて受け取っている理由は、「何か大きなことが起ころうとしている」からだと思う。

「何か大きなこと」と言うのは、金融制度、政府、軍隊、メディアを含めた、西洋の諸制度をコントロールしてきた秘密の権力エリート集団が、ついに反対勢力によって追い詰められているということだ。



この反対は、ある巨大な国際的同盟から起こっている。ここには、私がこの番組の中で示すように、好意ある ET 人間の大きな同盟も含まれている。

我々は、この努力の地球外生物側について論ずる、ごくわずかのサイトの一つであり、現在のようにそれが明らかになるずっと前から、その重要なデータのリークをめぐって、死の脅迫に直面していた。

ここには、あまりにも多くの、込み入った、多面的な、相互につながったストーリーがあるので、整理することは難しい。このラジオ番組はそのいくつかに触れている。

加えて、今ほど、この問題を論ずるのが危険な時期はない——大がかりな警察の行動が差し迫っていると思えるからである。

あらゆる新しい情報や警告を含んだ、我々の最初の自家製のビデオが、もうすぐ出るはずである。これは恐ろしいものなるだろう。

一方において、この好機を捕まえて、私は編集デスクを離れ——ちょうどクリスマスに間に合って——ジミー・チャーチとこの対談を行う時間を取ることができた。

ここでは、私のもつ資料でも、最も深く宇宙的なものに触れるだろう。だから SF のように読める科学的事実を好きな方々には、もってこいの話になる。

デイヴィドと彼の仕事の紹介

Jimmy Church: デイヴィド・ウィルコックは職業的な、直観的コンサルタントで、彼は 1993 年に Richard Hoagland の *The Monument of Mars* を読んでから、UFO 学、古代文明、意識の科学、物質とエネルギーの新しいパラダイムを研究してきました。

彼は *Convergence* シリーズと呼ばれる科学的研究の、学術的に認められた 3 部作の著者でもあります。この研究は、物質、エネルギー、それに意識の変化がいま、地球と太陽系全体に起こっているという考えに、明確な保証を与えています。

彼はテレビに出演し、アメリカ各地、それに日本でも講演し、各種の雑誌に記事を書き、ちょうどこのような多数のトークショーに出ています。

このショーに戻ってきた我々の親友デイヴィド・ウィルコックを、歓迎したいと思います。デイヴィド、こんばんは、ご機嫌いかがですか？

D: 何かすごく面白くなりそうだね。

J: そうです、すべてあなた頼みです。(笑)

(ウィルコックの一方の専門でもある、ギターや作曲の話題を数ページ省略。)

なんとか 2014 年の記憶を消してもらえないか？

J: 今晩はたっぷり時間があります。ご存知のように、この会話の内容は開かれたものです。しばらくぶりの会話ですが、でも時間の限りはあります。

2014 年もあとわずかですが、かなりクレージーな年でした。

2015 年に入ろうとして、この 2014 年が、あらゆる方面でかなりドラマチックな年だったと感じます。

毎週、何かが崩れていく感じでした。でもなんとか通過してきました。2014 をやっと切り抜けたという感じです。

D: 全くその通り、言われる通りです。

J: 我々に何ができますか？——2015 年に入っていくながら、何をしたらよいのですか、この事態を変え、2015 をよりよい年にするために？

D: 私は、最初にやるべきことは、2014 年を記憶から消すことだと思う。そして何も起こらなかったように行動する。(笑) 私の脳をきれいにする。

J: ドライブをデフラッグすることか。(笑) いや賛成です。

質問に答えるためには、ウサギの穴をかなりの速度で落ちていかねばならない

J: いやその通りだと思う。私は 10 年後には、この 2014 を振り返って、かなりクレージーな、我々みんなにとって有意義な年だったと考えるだろうと思います。

答えられない問題を山ほど抱えたまま、我々は 2015 に入っていくことになる。

D: 事態がなぜこんなに奇怪なのか、なぜあらゆる人々が苦しむのかを本当に把握するためには、何が真実か、何が知識なのか、そして我々に何が起こっているのかを理解しなければならない。

そうするためには、我々はウサギの穴をかなりのスピードで、しかもかなり深く、落ちていかなければならない——しかし、あなたの番組を聞いている人々は、それができると思う。

J: そう、それは間違いないと思います。

地球のエリートたちは地球外人に操られている

D: そこで、これが重要なのだが、もしあなたが彼らを、イルミナティとか地球的陰謀団とか呼びたいと思うなら、このゲームを動かしているのは彼らではない。

彼らは地球外人によって操られているのです。そしてこれらの地球外人は、食糧源として恐怖を必要としている。彼らはそれを“loosh”と呼んでいる。

だから、陰謀団がその正体をバラされ、敗退していくにつれ——今それが起っていて、目に見えてその兆候がますます現れているのだが——霊的領域からの押し返しがだんだん大きくなっている。

こうしたネガティブな存在たちは、あたりを掻き廻して、悪さをする能力をもっている。

今すべてが、この衝突のドラマの一点に集中しているのは、これら悪者たちが、負けたくないと思っているからだ。だから彼らは、持っているあらゆるものを使って戦っている。

彼らは絶えず、新しい戦争と新しい問題を、我々に対して起こそうとしている。

ライオンとトラ、それにゾットするエボラ！

J: 今年はそういったものがあまりにも多かった。国内でおこっていることだけでも、人種問題とかファーガソン、また警官やインフラストラクチャー・・・

D: そして、あのゾットするエボラ！

J: そうそう、エボラがある。また MH17、MH370、クリミア、ロシア、北朝鮮・・・

D: イスラエルのパレスチナ爆撃・・・

J: そう。これらすべては、我々が、よりクレージーにならないように努力している例ですか？

神の介入が陰謀団を抑えて、集団的“人口削減”が起らないようにしている

D: コントロールが効かなくなり、スパイラルが起り得たのだが、そうならなかった例がいくつもある。

あなたの聴衆はご存知と思うが、あの“ジョージア・ガイドストーン”という、ストーンヘンジに似た石碑で、高さ 14 フィートの巨大な花崗岩のブロックが、ジョージア州にある。

そこには一連のいわばガイドラインが、いくつかの言語で彫りこんである。

誰が書いたのか、そのガイドライン No.1 は、地球の人口を 5 億以下に保て、と言っている。

誰もこれを倒そうとした者がなく、それらは保護されている。

暗号の立方体

今年起った大きなことの一つは、英語で書かれた石碑の天辺だったところに、1つの立方体が置かれたことだ。(訳注：6x6x6 インチ=666 になっている)

この立方体には、これを建てた者たち——私は陰謀団だと思うが——が、2014 年に達成しようとしている目標を示す暗号が書かれている。

どのようにしてこの暗号が解かれたかを話してもよいが、とにかく、そこから 2 つの日付が現れた。

その 1 つは、2013 年に政府が閉鎖された正確にその日であり、もう 1 つは、ファーガソン暴動が最も激しくなった日だった。

だから、この立方体が 2014 の日付をもっているところを見れば、彼らが大規模な暴動と政府の閉鎖を、故意に起こそうとしていたことがわかる。

それがこの立方体の意味するものだった。そう、今はもう 2014 年は終わろうとしていて、一週間しか残っていない。だからこれらの目標は実現しなかった。

J: 誰がそれを止めたのですか？

これは霊的次元の戦争である

D: 究極的に、我々は霊的次元の戦争に直面している。もしこれを、この地上の誰かという観点でしか見ないとしたら、何が起きているのかを、本当に把握することはできない。

ETがあらゆる所にいる。現在、我々の惑星に対する興味が非常に大きくなっている。

現在、通常、我々の太陽系に住んでいるのではない人々、いろんな種類の新しい人々が、そこらあたりにいる。

いま、あらゆる種類の面白いことが進行中だ——もしあなたが、その方面のインサイダーたちと、私のように接触していればわかるのだが。

不幸なことに、そのような接触をもつ人は、ごくごくわずかしかない。私は、この種の情報を一般大衆に現実にリークすることのできる、限られた人々の一人だ。

多くの潜在的な地政学的焦点

J: あわやというような衝突の場面といえ、ほんの一瞬、クリミアを通じて、ロシアとの関係がそうでした。

そして確かに ISIS についてもそうで、いつ何どき、コントロールが効かなくなるかという状態でした。

また北朝鮮との関係もそうだった。

ロシアについては、かなり怖いところまでいき、まさに瀬戸際だった。

誰が、プーチンやオバマと交渉して、それがコントロールできなくなる前に、状況を鎮静化したのですか？

D: これもやはり、私が本当に知っている観点から、話さねばならない。

私はあなたのために、話を分かりやすく砕くことはできない。なぜなら、私が知っていることに基づいて話すのだから、それは失礼なことになる。

代理戦争が、さまざまな地球外人（ET）と地球内一味との間で戦われている

我々が地上で見ているこうしたことは、本質的に代理戦争だということを理解しなければならない。

例えば、朝鮮戦争は、本当はアメリカ対ソ連の戦争だった。ソ連が北朝鮮を、アメリカが南を支持していた。

アフガニスタンのもう一つの例だ。アフガニスタン戦争は、本質的に米ソの代理戦争だった。

米とロシアの間に起こっているような、現在の地球上の紛争は、究極的に、情報、現実の戦略、それに介入や戦闘行為をさえ与えている地球外人集団の、対立分派間の代理戦争だ。

これは複雑で説明はむづかしい。しかし今この時も、現実の背後で、いろんなことが行われている。

もし平均的な人がそれを知ることになれば、それは完全に、「目を覚まして現実を知る」というアプローチになるだろう。

我々に何ができるだろうか？ それが肝要の問題だ

J: ポジティブでもありネガティブでもある一つの文明として、我々に何ができるでしょうか？ どうすればよいのですか？

D: それが第一の問題だ。

多くの人々が、確かに、この秘密の宇宙空間の問題と、霊的な側面のことを話題にしている。

覚えておいてほしいが、この宇宙は気の遠くなるような複雑なものではない。その答えは単純だ。

良い者（ET）たちは究極的に、宇宙の自由意志原理に基づいて働いている。その意味は、本当に重要なことは、我々が自由意志でどう考え、他者に対してどう行動するか、ということだ。

これによってポジティブな者たちは、我々がポジティブに活動するほど、より多く仕事をすることができる。

瞑想効果が最も重要な例である

例えばこれは、あなたが瞑想効果というものを見ると、7000の人々が一緒になって瞑想を

すれば、世界中の犯罪やテロの量が、72%も減少することの理由になっている。

世界のどこかの、一つ屋根の下に会したグループが——それはどこでもよいのだが——そういう現象を起こすことができる。

彼らが、意識の正しい状態にあれば、彼らは世界中の敵対行動や死亡者の数に、これほどの劇的な効果を与えることができる。

因みにこれは、39件以上の記録された研究で、科学的に証明されたもので、反論の余地はない。他のすべての変数要因は除外されている。

我々の意識は、我々が意識しているより、はるかに強力なのだ。

悪者 ET たちは予言的プログラミングを用いている

悪者たちは絶えず、例えば予言的プログラミングのような、我々の意識の恐ろしく創造的な力を、我々に不利なように利用しようとしている。

これが、彼らが、最新の『サルの惑星の夜明け』のような、意図的なメッセージを含んだ映画を作る理由だ。

この映画の最初の場面は、エボラのようなウイルスによって起こされた、地球的終末のシーンだ。

J: フン、フン。

D: あなたがこの映画を見始めて2分くらいの間に、ほとんどあらゆる人間が、エボラで死んだと想定するだろう。

それから映画全体に、あらゆる人が死ぬ前に隔離されていた FEMA 地帯のシーンが入っている。



さて、FEMA 地帯は、木やつる草などですっかり覆われている。しかしこれは映画全体を通じて、ずっとこうなっている。

我々は窓に X の入った家々を見せられるが、これはその人たちが死んだからだ——ただそれはもうかなり前のことだ。



ニセ旗事件が使われ、情的エネルギーが、そこに創り出された視覚像に吹き込まれる

それで、彼らがそういうものを制作することの狙いは、予言的プログラミングなのだ。

彼らは、あなたに、そのプログラムを頭の中に取り入れさせて、これが起っていることだと思わせたいのだ。

そうしておいて彼らは、ニセ旗事件を創り出すときに、感情のエネルギーをあなたの頭に吹き込む。

そのニセ旗事件はトラウマを創り出し、それは、ちょうど映画のように、彼らが見たものについて考えさせる。

そこで我々が、自分の創造力をその考えの中に注ぎこみ、これを信ずるようになると、ネガティブな者たちは、こうした目標をますます達成できるようになる。

ポジティブな結果に焦点を合わせること、そして自分の人生の中で、また他者に対して、調和を創りだすために何ができるかに集中することが、非常に重要なことなのだ。

瞑想効果について言ったように、それは、人々の自由意志に対し、またこの地上で事態がどうなるかに対して、非常に強い効力をもっている。

私はこれこそが、今年、大きな戦争や大量死を避けられた理由だと思っている。

なぜ“我々”は、そのアジェンダを暴くポジティブな映画を作らないのか？

J: その点では私も同意見です。面白い別のことで、あなたに答えてもらいたいと思っていることが一つあります。

我々が見る映画は、たいてい、ゾンビーとか ET 映画とか、終末、世の終わりを扱ったものが多いのです。

いったいどうしてですか？ 我々の責任かもしれないが… どうして我々は、いつも世の終わりの本物そっくりのホログラムばかりを与えられていることを教える、映画を作らないのですか？

その観点を明らかにしてくれる、一つの特別の映画でもあれば・・・

D: ああそれなら、Amy Berg が、ハリウッドでの小児性愛を記録した映画を出そうとしたことがある。

彼女は一度、ニューヨークで試写会を行った。が、それ以後、この映画について我々は何も見も聞きもしていない。<http://blogs.indiewire.com/thompsononhollywood/amy-bergs-doc>

[nyc-premiere-an-open-secret-flays-hollywood-sex-abuse-20141117](#)

Amy Berg's DOC NYC Premiere 'An Open Secret' Flays Hollywood Sex Abuse



By Ryan Lattanzio | TOH!
November 17, 2014 at 3:47PM

Amy Berg's 'An Open Secret' exploded out of DOC NYC last weekend. But will this Hollywood sex abuse exposé find the audience it urgently demands? Critics weigh in.

その“我々”という言葉については、よほど注意しないとイケない。

“我々”と言うと、それは民主主義的なプロセスで、誰でも、映画作りの資金を得て製作できるかのようだ。

そんなわけにはいかないのだ。

そこでエイリアンが地球を侵略してきて、それから・・・

J: そこが私の言いたいところです。まさにそれを言いたかった。なぜ、そういう映画ができないのですか？

“Pacific Rim”とか“Transformers”のようなものを見てさえ、いつも同じことだ。いつもすべての終わりということです。

D: 私の記憶だが、誰か、トム・クルーズが彼の映画“Edge of Tomorrow”について受けたインタビューのことを話していた。私は実はこの作品は面白いと思ったが、こういうのが当然と思われているのだ。

彼はインタビューの中で言っている、「そこで、この映画の前提は、エイリアンが地球を侵略しようとしているということだ…」そう言って、彼はその話をずっとしている。

エイリアンが侵略してきた、バン、その先の話はこうこうだ——。

エイリアンの侵略の映画と、ポジティブな地球外人の映画の数を比較してみれば、信じられ

ないほどだ。

それは、あることはあるが、わずかしかない

J: 私は一つも知らない。“ポジティブ”な映画は一つも知りません。

D: 最近発表されたものが一つある。“Earth to Echo”という経費のかからない独立映画だが、かなり良いものだ——しかし多くはない。



J: なるほど。キアヌ・リーブズのあれはどうか？ 何とか言った、そう、“The Day the Earth Stood Still”。

D: あの映画でさえ、いくつか非常に不安にさせる場面がある。

こうしたニセ旗事件を与えられる我々は、単なるグローバリストのチェスの捨て駒なのか？

J: 我々がさっきまで話していた問題に戻ることにしましょう。前世紀以来のいろんな、現在の状況のもとになった出来事です。

第一次大戦、第二次大戦の始まり、それを引き起こした出来事、朝鮮戦争、トンキン湾事件、キューバ、イラクへの二度にわたる侵出、シリア・・・

そのすべてが、ある種のクレージーなニセ旗が関係しているように見える。

それがずっとクリミアや、我々の北朝鮮との関係にまで続いている。

これらの一つひとつで、我々はチェスの捨て駒になっているのだろうか？

そこに大きなチェスボードが置いてあって、ゲームが我々の目の前で行われているのですか？

D: そういう言い方は、我々が、結果に影響を与える何の力も持たないという意味を含んでいる。

それを止める方法は、人々の間に自覚を広めること

私は我々が力を奪われているとは思わない。

私は、これが、歴史的にゲームが行われてきたやり方だと思う。

それを止める、我々の持っている唯一の方法は、人々の間に自覚を広めることだと言いたい。

あなたの聴衆のような人々が、このことを学んでいけば、それは共通の知識になっていく。

私のある女性の友人のお母さんは、大変保守的で、伝統的な精神構造の枠に、完全に閉じ込められていた。

半年ほど前だが、彼女は私に、「あなたはブッシュ政府が9・11の背後にいたと思いますか？」と聞いたよ。(笑)

J: え、本当に？

D: 本当だよ！

『アイアンマン3』がそれを語っている

そのことは、2013年のトップ映画『アイアンマン3』でさえ主張されている。

この映画で、The Mandarin と呼ばれるオサマ・ビン・ラディンのような悪漢がいて、最後

に、彼が誰に雇われているかがわかるのだが、誰だと思う？

アメリカ合衆国副大統領だよ。（訳注：ディック・チェイニー）

そして合衆国大統領を演じていた男は、おそらく探して見つけた、ジョージ・W に最も似ている俳優だ。

J: アンビリーバブル。

D: イエス。

隠された^{きん}金や、大量逮捕計画の話はしてもらえるのか？

J: ちょっとこれを聞いてください。この質問はeメールで届いたもので、こう言っている。

「ジミー、

少し前にユーチューブ・ビデオで見たのですが、デイヴィド・ウィルコックが、イルミナティの崩壊のことを話していて、文字通り、何トンもの金塊が海の底に隠してあるとか。そして国家首脳やトップ・アンカー、彼らの仲間を逮捕する計画があるとのこと。

これについて最新ニュースをまだ聞いていません。彼にこれを聞いていただけますか？ どうぞ、どうぞ、お願い！」

D: いいとも。これは非常に複雑な話です。ある許容範囲内で喜んで情報を提供しよう。

この話を“スクープ”しようとする、墓穴を掘ることになりかねない

問題の一つは、実は私のような人間だ。

私は世界の人々の前で謝罪しなければならない——私のようなインターネット・ジャーナリストが、熱意のあまり特定のになりすぎたことがあった。

ある情報が、私は知らなかったのだが、正確過ぎた。

そのために、この大量逮捕を計画する司令部の立場にいた人々が、殺されるということがあった。

過去のある時期に、我々はナイーブに、あまり多くを暴き過ぎた。

これを実行しようとしていた人々の指令部全体が、手投げ弾で殺された。

だからこれはきわめて真剣な戦争なのだ——非常に現実的な。

これは必ず起る——そうならば、誰もが根源まで探ろうとするだろう

私に言えることで、誰も殺される危険のないことが、いくつかある。

その一つは、No. 1——これは必ず起るということだ。

ひとたびそうなったら、人々は何百万という単位で、このショーに耳を傾けるだろうし、私（や他の人たち）がそれを話題としている、この番組にも耳を傾けるだろう。

[他の記事で明らかにしたように、この計画を最初にリークしたインサイダーは、**Sherman Skolnick** (1999 - 2000 頃) だった。その後、ベンジャミン・フルフォードが 2008 年頃に、この物語を取り上げた。]

誰も私にどうすべきかを訊ねない——私はただリークされた情報を伝えている

非常にはっきりさせておきたいことが、一つある。

私はこれに関わっていない。誰も私に、どうしたらいいかを訊ねる人はいない。私は指令の役はしていない。私は方針決定の権威をまったく持っていない。

私のやっていることはただ、決定をしている人々自身からのリークを受け取ることだ。

私は、彼らのやろうとしていること、どのようにそれを行うのか、いつ、どこで行うのか、などについて、指令するようなことはしていない——全く。

OK?

J: OK です。

多数のグループが今、コンセンサスを得ている——そして統一された計画も

D: しかし、このことは言うことができる。

世界中の多数のグループが、相互の違いを整理しなければならなかったのだが、今、何をするのか、どのようにするのかについて、合意に達している。

そのコンセンサスは得られている。ほぼ2か月前から得られている。

しかし、そこに至る前には、現実にもどのように実行するかについて、意見の食い違いが相当あった。

これはなぜかと言うと、今やろうとしていることは、究極的に、そのアジェンダを遂行するのに、殺人の権力と、非常に強力な、国際的メディア・プロパガンダを使うことのできる、ある構造を根から引き抜くことだからだ。

この陰謀団に正面から逆らうことは、致命的といってもよい、きわめて危険なことだ。

同盟の中には誰がいるのか？

この国際的同盟の中には、東洋のある大きな分派、ロシアの大きな分派、ヨーロッパの大きな分派、南米からのより小さい分派、中東とアラブ諸国のより小さい分派が含まれている。

[米軍の一部もこの同盟に協力しようとしている。しかし明らかにこれは、ペンタゴン自体の内部から、繰り返し駆除されている。]

そして、理解していただきたいのだが、「より小さい (lesser) 分派」というのは、彼らがこの問題を解決するのに貢献できる、武力と輸送力の量を言っているに過ぎない。]

分派の分派を含めて、あらゆる異なったグループが存在する。かつてブッシュの仲間だったが、離反したグループがある。

かつてロスチャイルドの協力者だったが、決別したグループがある。

かつてヴァチカンの協力者だったが、離反したグループがある。

あらゆる役者がそこには関わっている。彼らはみんな異なった欲求と要求をもっている——そのすべての人々が、コンセンサスに達しなければならなかった。

このグループは全体として、何らかの報復がなければならぬと決定した

ところで、いくつかのグループは、完全な大赦があるべきで、この過程の進行中にどんな死亡者も出ないようにしようと主張した。

この決議案は却下された。

自然的に起る暗殺があるだろう。これが始まると何らかの暴力がそこに伴うだろう。

それは人々を震え上がらせるだろう。そして大きな論争を引き起こすだろう。

私は、ひとたびこれが起ったら、自分の家に立てこもるつもりだ。

プロパガンダ母体は、これをクーデタだとして話を創ろうとするだろう

皆さんに申し上げたいのだが、事が起こる前に、我々がこれをリークしている理由の一つは、それが起り始めたとき、プロパガンダ母体が、これをクーデタのように見せかけることが、できないようにするためです。

これがロシアの情報作戦か何かで、奴らがアメリカを破壊しようとしている、といった見せかけをするのを、不可能にするためです。

そんなふうにはならないのです。

これは非常にポジティブな変化でなければならない。

米大統領選挙が 2000 年に盗まれた——これがクーデタだ

もしあなたが、合衆国政府に起こるクーデタを心配しているなら、それはすでに起った。何だと思う？

それは 2000 年の大統領選での “hanging chads” と呼ばれているものだ。

もしあなたが 2000 年前後の生まれで、若すぎるなら、そしてコンピューターいじりをやっ
ていて、注意を払っていないなら、遡って 2000 年に何が起きたかを調べてみるとよい。

それがクーデタの起きたときだ。それを今、我々は裏返しにしなければならない。

オバマや他の国家首脳は、おそらく裁判所に現れるであろう

J: あなたが暗殺と言っているのは、国家の首脳や銀行家のことか？

D: 私は、オバマは銃殺にはならないと思う。彼はおそらく裁判所に連行されるだろう。

彼はきっと最後には、泣きながら、起きたことすべて——そして彼が強制されてやったすべ
てを証言するだろう。

[毎日のように、ホワイトハウスでは、争って叫んでいる声が聞かれ、オバマが「黙れ、こ
のやろう、俺たちのやりたいことをやらせろ」と言われているのが聞こえる、という話を
我々は耳にしている。]

そしておそらく、予想だが、国家首脳のほとんどは大丈夫だろう。

映画『キャプテン・アメリカ』は一つのドキュメンタリーである

もしあなたが映画 “Captain America: Winter Soldier” を見るなら、これは一つのドキュメ
ンタリー映画である。製作者は正確に、今から起こることを教えてくれている。

この映画の基本的な前提は、我々が “The Avengers” で見た SHIELD というグループが、
実は本質的に、NSA や CIA のようなグループであるというものだ。

CIA は現在、60%まで同盟の支配下にある

CIA の内部でクーデタがあった、といま言うことができる。CIA は今 60%がこの同盟の支
配下にある。

これが意味するのは、今 CIA は、人類と米国民のために、愛国的な米国民の幸福のために、

働いているということだ。

CIA では、全面的なオーバーホールが行われた。

いまだに陰謀団のコントロール下にあるグループの一つは、国土安全保障省だ。

CIA と、他にもあるが特に、国土安全保障省の間で、大きな戦闘が行われている。

これが映画『ウィンター・ソールジャー』に典型的に描かれている。

このラジオ番組で触れなかった、いくつかの非常に新しい情報

[我々は、ある海運会社の、非常に有利な立場の情報源から、ある大きな出来事が、ここ 3 週間の間に起こっているという情報を得た。

大量の米軍の軍装備が、この国から運び出されている——非常に静かに、サンディエゴのような基地そのものから。

これが緊急に起こりつつある。あらゆる物が海外のいろんな場所へ移動している。軍のリーダーが、匂いを嗅ぎつけて、この動きを食い止めようと必死になっている。

数年前から始まったことだが、すべての兵士たちが、入隊の宣誓に違反して、無防備の市民に発砲できるかどうかを訊かれた。

出来ないと答えたすべての者は、ある別の基地に移送されたが、そこは 2、3 年以内に、意図的に徐々に廃止される予定になっている。

運び出されつつある軍装備は、すべてこれらの基地から出ている。忠誠な者たちのまだ駐留する基地からは、何も運び出されていない。

このことは、ひとたび事が起ったとき、愛国的な米軍が、「同盟」軍と戦うための装備を使えないようにする、壮大な軍事行動が実施されていることを示唆するものだ。

ソニーのハッキングや、他の多くの事件のように、これは、我々が論じている変化がやがて起ることを示す、もう一つの指標である。]

ナチ・グループが、第二次大戦以後、アメリカの情報機器を占領した

(キャプテン・アメリカで) 見るものの一つは、Hydra と呼ばれるナチ・グループが、アメリカの情報機器を奪ったことだ。

これは、ナチスが、第二次大戦後にここへ連れてこられた後で起こったことで、「ペーパークリップ・プロジェクト」と呼ばれているものだ。

それが何と、この映画で語られている！

そしてこれは、“Hunger Games” には及ばないが、この年の 2 番目に大きい映画だった。

この映画は、彼らは何をしようとしているかを語っている。“ヒドラ” のリーダーは、映画の終わりのところで銃殺される。

彼らが語っているところでは、おそらく何人かの狙撃による暗殺があるようだ。

彼らがやろうとしていることを、知っているかのように言うのは、極めて僭越なことになる

もう一度言うが、私にどう行動すべきかを訊ねた人はいない。

これらの暗殺の戦術的意義がどういうものか、また、なぜそれが必要なのかを、私が理解しているかのように言うのも、極めて僭越なことになるだろう。

私は、彼らが直面していることや、何が起きているのかを理解する、どんな役目をも受けていない。

流血は、できる限り少ないことが望まれる

私は個人的に、誰であっても暗殺されることを望まない。

できるかぎり血を流さないで、これが進行してほしい。これを平和的に進めることができれば、それが理想だ。

もしかしたら、何らかの神の介入があって、流血の必要がなくなるような事件が起こるかも

しれない。

私は心からそうあって欲しいと思う。